

(C) 森崎あきと

2002.05.20 (Mon)

電子印鑑

北の鬼ののろい

これがわかれば、

名探偵

めいたんてい



森崎あきこ・作
佐野真隆・絵



目次

これがわかれば、名探偵

北の鬼ののろい

読者への挑戦状

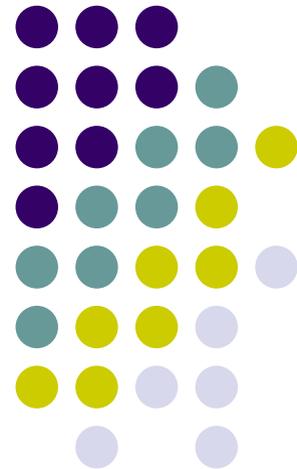
あとがき

作者について

画家について

おくづけ

月刊「豆の木」のお申し込み方法



ステージ1

夏休みになってすぐのことだった。

「マコト、おまえ、これ、わかるか？」

そういつて、父さんが、ぼくに、その紙を見せた。

今朝から、ずっとそれとにらめっこしていたんだけど、
いったいなんだろう。

父さんは、刑事。オニのブンタというあだなでおそ
れられているらしい。でも、家では、じくぶつうの父
さんだ。

「なに、これ？」

見ると、そこには、手書きで、こんなふうに書かれ
ていた。

北鬼呪札仇紅盗、

材移心数人六協、

宝今式宝凶夙

なんなんだ、これは。

ぼくは、しばらくその漢字とにらめっこをしていた。でも、まったくなんのことやらわからなかった。中には、まだ習っていない漢字もあるし。じまんじゃないけど、ぼくは、漢字が大の苦手なんだ。

「北の鬼ののろい、これ、なんなの？」

呪文かお経のようなものかな、と思った。

「今、取り組んでる事件だ」

ふだんは、仕事の話はしてくれないのに、いったいどうしたんだろう。めずらしいこともあるもんだ。

「へええ、どんな？」

「この前、銀座の丁宝石店で、『アメリカ姫の誓い』というダイヤがぬすまれたんだ」

それなら、テレビのニュースでやってた。たしかぬすまれたのは、一億円のダイヤモンドだったとか。

「でも、犯人、つかまったんでしょ？」

「ん、小田という男なんだが、つかまったことはつかまったんだ。ところが、もっているはずのダイヤがないんだ。どこかにかくしたのはまちがないんだが、

がんなやつで、口を割ろうとしない」

で、いろいろ調べてみると、どつちやらこの町のどこかにかくしたことがわかってきたらしい。所持品を調べてみると、たいしたものはでてこなかったけど、ただ、ハガキを一枚持っていて、その裏にこの暗号のよくなもの、そして、表に宛先と宛名を書いたハガキがでてきたらしい。「おそらく、共犯者にダイヤのかくし場所を知らせるつもりだったんだろう。共犯者は、女で、まだつかまってないんだが」

「ふうん。じゃ、やっぱり暗号ってこと?」

「おそらく」

「暗号か」

ぼくは、推理小説が好きで、暗号ものならよんだことがある。たしか、ホームズも『踊る人形』で、暗号を解いたんだっけ。

「なあ」

とうさんは、身をのりだしていった。

「おまえから、理花ちゃんに聞いてみてくれない

か？」

なるほど、それで、ぼくに事件のことをはなしたと
いうわけか。

理花ちゃんというのは、山田理花のことで、幼稚園
のころからの友だちだ。三度の飯よりも事件が好きだ
という変わった女の子。以前、父さんが担当していた
事件のなぞをみごとにしてしまったことがあるん
だ。

そうか、もしかして、理花ならわかるかもしれない。

ステージ2

で、その次の日、ぼくは理花と駅前のハンバーガーショップでまちあわせた。

「え？ あのダイヤが！」

ぼくが、事件のことを話すと、理花が大きな声を出した。その声にびっくりしたのか、むかしの席にすわっていた女の人がふりむいて、ぼくたちのことを見た。このへんではあまり見かけない人だった。

「わかる？」

ぼくは、その紙切れを理花にさしだした。

「ふーん」

「それって、もしかして、暗号だとおもっただけど」

山田理花は、名探偵ホームズよろしく、その暗号とにらめっこしながら、なにやらぶつぶついつている。

「面白そうな暗号ね。でも、そんなにむずかしいものじゃないはずよ」

理花はそういったまま、ほんのしばらくだまっていた。そして、

「あら、おかしいわね、この漢字」

「どうしたの？」

「ちょっとだまってて」

眉間にしわをよせて、しきりにぶつぶついていた。いくら、名探偵といえども、そうかんたんには解けないらしい。ぼくだって、一晩中考えてもわからなかつたんだから。

と、理花は、ぱつと顔をかがやかせて、笑いだした。そして、

「ね、これから行ってみましょ」

目をまんまるくしているぼくに、そういった。

「行くつてどこへ？」

「ここに書いてあるところへよ」

「えっ？ もうわかったの？」

そんなばかなと思って、聞き返すと、

「もちろん、こんなのかんたんじゃない。こんな簡単な暗号、幼稚園の子どもでも読めるわ」

理花はけろりとした顔でこたえた。

「それで、なんて書いてあんの？」

「なぞときは後よ」

本当はわかってないんじゃないだろうか、とぼくは思った。

「さ、とにかく行きましょ」

理花は、いすからたちあがって、さっさと店を出てしまった。

外は、体がバターみたいにとけてしまっくんじやないかと思うくらい暑かった。商店街のアーケードをしばらく歩いた。

と、ふとだれかに見れているような気がして、ふりかってみた。そこに、女の人が立っていた。でも、大きな帽子をかぶっているので、顔はわからない。ぼくのことには気がつくくと、女の方は、きゆうにそっぽをむいた。さっき、店でふりむいた人によくにてたけど。。でも、ま、気のせいだろう、とぼくは思った。

読者への挑戦状



- ステージ3
- それから、3時間後、ぼくたちは、小田家の墓とかいたお墓の前に立っていた。ここは、****という小高い岡の上にある墓地。
- ぼくたちのことを、カラスが見ている。まるで、かんしするように。いくらまだ明るいといても、ちょっとぶきみだった。

- 読者へのちょうせん状
- さて、ここまでで、暗号はとけるはずだ。どうか自分で解読してほしい。名探偵がいったとおり、本当にかんたんな暗号なのだから。

- 続きの読みかた

- ステージ3 の ここは、****という小高い岡の上にある墓地。 の ****には、漢字が4文字入ります。答えがわかったら、このページ、右上の画像をクリックして、ローマ字で、入力してください。正解なら、お話の続きが読めます。

あとがき

どうですか？ 暗号はとけましたか？ 豆の木書店のホームページにこの作品をのせてから、いろんな人からメールをいただきました。五分で暗号を解けた人、何時間考えてもわからなかった人、また、友だちに聞いて、教えてもらった人。ちなみに二〇〇一年七月二十日の時点では、正解した名探偵は、三十一人、答えがわからないので、ギブアップした人は、五十七人いました。

暗号をみごとに解いた名探偵のかたは、豆の木書店のホームページの中の名探偵名鑑というゲストブックにサインをしていただいています。あなたも、ぜひとも、暗号をといてから、サインをおねがいたします。なお、名探偵名鑑のURLは、謎をといた人だけにわかるようにしてあります。

作品について、少し。この作品は、「これがわかれば、名探偵」シリーズとして、何作か書いてあります。新作は、少しずつ月刊『豆の木』で発表していきたいと思っていますので、ご期待ください。

また、もし、暗号を使った本を他に読みたかったら、那須正幹さんの「首なし地蔵の宝」がいいでしょう。もっとむずかしい暗号にちょうせんしたい人は、高学年むけですが、ぼくの書いた「ミス・ホームズ 狙われた暗号」にちょうせんしてみてください。今のところ、この暗号を解

いた人は一人もいません。最後に、この作品は、T・T
imeを持っていないかたのために、だれでも読めるHT
ML形式でも発表してありますので、お友だちにもおしえ
てあげてください。

二〇〇一年八月十二日

森峰あきら

PDF版について

長い間、この作品をどのようにしてPDF（今、読んで
いるこの電子本がPDFファイルです）形式にすればいい
かわかりませんでした。そもそもPDFを作るためのソフ
ト、Acrobat を買ったのが、2002年1月のことで、そ
れ以来、このソフトの使い方を勉強してきました。とにか
く、今まで作ってきたT・Timeと比べて、このソフト
のむずかしいことといたら。でも、ようやく、なん
とか、このようなものができました。まだ、この電子本に
はいくつか欠点があります。ルビをつけていないことなど
ですが、また、少しずつ勉強して、手直ししていきたくと
思っています。

二〇〇二年六月十二日

森峰あきら

文を書いた人：森峰あきら

奈良県に生まれる。『プロレスあんちゃん』『ともくん、みっけ』『たっくんマント・しりとりヘンシン1, 2, 3』『たっくんマント・怪盗アッカンベーのまき』(いずれもポプラ社)『吸血ドラキュラねえちゃん』など。

メールアドレス

msholmes@sage.ocn.ne.jp

絵をかいた人：佐野真隆

富山県に生まれる。挿し絵の仕事に『走りぬけて、風』『ウエルカム！スカイブルーへ』『子うしのハナベエ日記』『おかあさんへの手紙』『ぼくらは春に』など。

ホームページ

<http://www.interq.or.jp/dragon/shinryu/>

メールアドレス

shinryu@dragon.interq.or.jp

おくづけ

作品タイトル：「北の鬼ののろい」

枚数：12枚

文を書いた人：森峰あきら

絵をかいた人：佐野真隆

電子本にした人：森峰あきら

校正をした人：講元美香/鈴木さん

発行所：豆の木書店

豆の木書店のホームページ：<http://www4.ocn.ne.jp/~e-books/>

豆の木書店の掲示板：<http://free1.has-u.co.jp/cgi-bin/free/culture/u-bbs.cgi?room=hiroba1>

豆の木書店のメールアドレス：mamenoki@vega.ocn.ne.jp

豆の木書店の所在地：〒638-0812 奈良県吉野郡大淀町桧垣本2028-2

豆の木書店の電話・ファックス：0747-52-7599

初出：この作品は、2000年6月10日、4年の読み物特集号 上 特集 ひらめき！きらめき！たんていものがたり
株式会社 学習研究社に掲載された作品を電子本化したものです。

二〇〇一年三月 電子本化（TTZ）して、月刊『豆の木』創刊準備号見本誌として公開。

二〇〇一年八月 掲示板へのリンク、ルビの不具合、表紙絵を入れる。

二〇〇一年十一月 ホームページと掲示板の転送URLから本来のものに変更。

二〇〇二年六月十日、PDF版を公開。

今後、作品の本文中にも挿し絵をいれていく予定です。

月刊『豆の木』のおもうしこみは、今すぐこちらから

月刊『豆の木』は、日本で初めて、そして、唯一の電子本児童読み物雑誌です。一流の執筆スタッフによる作品が、六ヶ月で千二百円というのは、電子本だからできることです。ぜひとも、この機会に、おもうしこみください。
おもうしこみは、こんなに簡単です。

- 1 利用規約を読む。
 - 2 申し込みメールを送る。
 - 3 購読料を送金する。
- 以上です。

ステップ1

利用規約を読む

ご注文の前に必ずご確認ください。

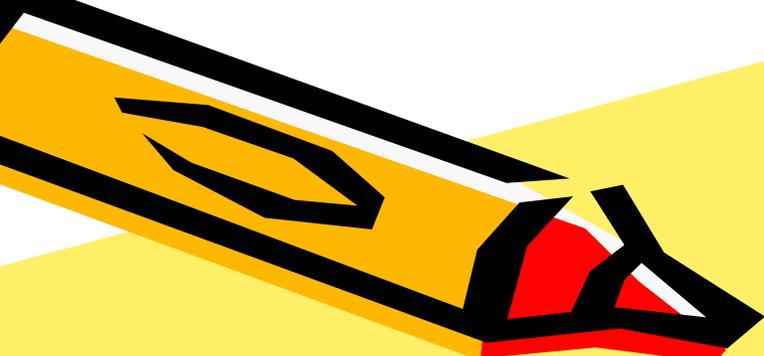
- 1 作品の全部または一部を著作権者ならびに豆の木書店に無断で複製、転載、改ざん、公衆送信(ホームページなどに掲載することを含む)することはできません。
- 2 学校などのLAN環境でご利用になる場合には、別途、料金が必要になりますので、その旨、お知らせください。
- 3 もし万が一、月刊『豆の木』が購読期間の途中でやむなく廃刊もしくは休刊することになれば、残りの購読期間に相当する作品を月刊『豆の木』のバックナンバーか、豆の木文庫の本をお送りして充当させていただきま
- 4 挿し絵は、かならずしもすべての作品につくわけではありません。
- 以上の規約に同意される場合は、次に進んでください。

ステップ2 申し込む

- お名前とメールアドレスを書いて、豆の木書店宛にメール(mamenoki@vega.ocn.ne.jp)でお申し込みください。
- 転送メールアドレスにはうまく送信できないことがありますので、転送メール以外でお願いいたします。
- お申込みいただくと、すぐに豆の木書店から申込み確認のメールをお送りいたします。

ステップ3 購読料の送金

- 購読料、千二百円を以下の郵便振替口座へ振り込んで下さい。たいへん申し訳ありませんが、振替手数料はご負担をお願いいたします。
-
- 口座番号:14110 - 91642511
- 加入者名:豆の木書店
-
- 購読料、千二百円は、二〇〇二年五月現在での購読料です。将来、場合によっては、購読料値上げのやむなきにいたることもございますので、念のため、豆の木書店のホームページの申し込みページでお確かめください。
-
- 振り込み後、かならず、お名前、メールアドレス、
送金された年月日を、豆の木書店までメールでお知らせください。
- 入金を確認しだい、メールをお送ります。
- そのままで、その月の号から、六ヶ月間、月刊『豆の木』をおとどけします。



児童文学専門の電子書店

豆の木書店

ホームページ: <http://www4.ocn.ne.jp/e-books/>

メールアドレス: mamenoki@vega.ocn.ne.jp

所在地: 〒638 - 0812 奈良県吉野郡大淀町桧垣本2028 - 2

電話・ファックス: 0747 - 52 - 7599

